



### 登録品種の 名称使用義務は？

種苗はその外観だけでは品種の区別が付きにくいことから、登録品種の種苗を「業として譲渡の申出をし、又は譲渡する場合」には、その登録品種の名称を使用しなければなりません。

これにより、販売されている品種が登録品種であるか否かの判断を可能とし、種苗取引の安全の確保と流通の混乱防止を図っています。

また、登録期間の満了等により品種登録が失効した品種についても同様に、登録品種であったときの品種の名称を使用しなければなりません。

なお、収穫物や加工品については、名称使用義務はありません。

# ラボから新技術

その3

特集 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発

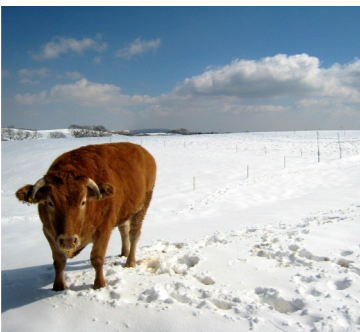
## 周年放牧体系を利用した「あか牛」の肥育手法

—豊富な草資源を活用し、濃厚飼料を削減—

### (1) 放牧はめす牛だけじゃない？！

放牧されている牛は、繁殖用の牛（めす牛）が一般的ですが、ここ数年では肥育用の牛（雄雌どちらも）も放牧への取り組みが始まっています。

放牧することは、牧草地の草を食べることで、広大な草原を維持し、かつ、国産飼料利用率も高まります。



### (2) 新技術☆

放牧での肥育は、始まったばかりの取り組みで、技術的に確立されている状況ではありませんでした。

そこで今回、開発した肥育手法は、冬期に飼料稲サイレージやコーンサイレージ・牧乾燥を代替飼料として給与すれば、肥育期間は長くなるものの、濃厚飼料を4割（1~1.5t）削減が可能というもの。

この技術を導入することで、全日本あか毛和牛協会の基準に沿った国産飼料利用率の高い牛肉の生産量増加が期待され、更には草原の利用推進と牧野の活性化にもつながるものと思われます。



草地畜産研究所  
北 研究参事  
(現)菊池地域振興局  
農業普及・振興課

技術の詳細はコチラへ <H24年度公表 農業の新しい技術>  
<http://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/62793.pdf>

# 農研NOW

冬号  
平成26年1月

### 目次

- トピック P.1
- ラボから新技術 P.2
- 特集：稼げる農業を目指した革新的生産技術
- 湿地性カラーの改植法
- トルコギキョウ品質向上栽培法 P.3
- あか牛の放牧肥育法 P.4



熊本EC11

お歳暮時期に待望の熊本みかん誕生!!

## みかんの新品種「熊本EC11」

農業研究センター果樹研究所で、みかんの新品種「熊本EC11」を育成しました。

### 1. 品種の特性

12月に出荷するみかんとしては、高糖度でじょうのう膜(中袋)がやわらかく、とてもおいしいみかんです。

また、果実腐敗につながる浮き皮の発生が少ないため、生産・出荷量の安定が見込まれます。

### 2. 育成の経過

平成11年に「させぼ温州」に「ハッサク」の花粉を交配して得られた珠心胚から、14年の歳月をかけて育成したものです。

平成25年2月25日、種苗法に基づく品種登録出願を行い、同年6月12日に出願公表されました。

—「熊本EC11」の名前の由来—  
当農業研究センターが11番目に育成した柑橘であり、Evergreen fruit(常緑果樹)、Citrus(柑橘)の頭文字と育成順番の11を取り、「熊本EC11」と命名しました。

### 3. 今後の産地化

この品種の産地化により、みかんの最大の需要期である12月に高品質みかんを安定的に出荷できるようになり、熊本みかんのブランド力向上が期待されます。

平成26年春に県内産地で現地実証ほを設置するとともに、平成28年春から県内生産者に対する苗木供給を予定しています。

H35年までに100haを目標に産地化を進めます。



### アジア農業 シンポジウム開催

平成25年12月7日(土)に東海大学(熊本市東区渡鹿)において開催されました。このシンポジウムは、東海大学が1982年からアジア諸国の大学・研究機関と協力して実施されてきたものです。

今回のメインテーマは「アジア諸国における六次産業化の展望と課題—自立できる農業を目指して—」。

当農業研究センターの麻生所長が「熊本の農業から『明日の農業』を考える~六次産業化への取り組み~」をテーマに基調講演を行いました。

また、ポスター発表では、農産園芸研究所作物研究室(坂梨室長)・果樹研究所常緑果樹研究室(榊室長)・天草農業研究所(藤田所長)がそれぞれ発表。活発な質疑応答が行われました。

KUMAMOTO Pref. 農業研究センター  
〒861-1113  
熊本県合志市栄3801  
tel 096-248-6411  
fax 096-248-7039  
www.pref.kumamoto.jp/site/493  
noukenkikaku@pref.kumamoto.lg.jp

管理部  
総務課  
経理課  
096-248-6412  
企画調整部  
企画課  
情報課  
096-248-6423

農産園芸研究所  
作物研究室  
矢部試験地  
バイオ育種研究室  
花き研究室  
野菜研究室  
096-248-6444  
生産環境研究所  
環境保全研究室  
土壌肥料研究室  
施設経営研究室  
病害虫研究室  
096-248-6447

畜産研究所  
大家畜研究室  
中小家畜研究室  
生産基礎技術研究室  
飼料研究室  
096-248-6433  
茶業研究所  
096-282-6851  
い業研究所  
育種・栽培研究室  
加工機能性研究室  
野菜栽培研究室  
0965-52-0372

草地畜産研究所  
0967-32-1231  
果樹研究所  
常緑果樹研究室  
落葉果樹研究室  
病虫化学研究室  
0964-32-1723  
高原農業研究所  
0967-22-1212  
球磨農業研究所  
0966-45-0470  
天草農業研究所  
0969-22-4224

「次世代の  
農業経営者を創出」

県内の意欲ある農業者の方等を対象に、第一線で活躍する実務家、学識者を講師に招き、経営者精神、リーダーシップ、マーケティング、マネジメントに関する能力を磨き、将来、県の農業を担うトップリーダーとなっていただくために開講しています。

塾長である蒲島知事の講話をはじめ、経営戦略論、人材育成と組織づくり論、農業のグローバル化対応論など、約7カ月間で10回程度の講座が行われます。

応募資格は、県内在住で、概ね5年以上農業を経験しており、経営権の委譲を受けている、または受ける予定の方で、農業経営を改革したいという意欲ある農業者であることです。

定員は20名程度で、例年6～7月頃に塾生募集が行われます。

# ラボから新技術

その1

特集 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発

## 湿地性カラーの球根 温湯消毒を導入した改植法

一定植後の萌芽が安定

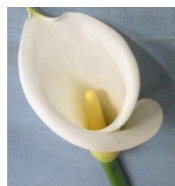
### (1) 湿地性カラーの生産

本県の湿地性カラーは、豊富な水資源を活かし、生産量全国第2位！熊本市や八代地域を中心に生産され、周年出荷されています。

サトイモの仲間で、漏斗状に巻いた純白の部分が花と思われがちですが、その部分は葉で、実はその中にある棒状のものが花なんです。洗練された清楚な印象の花で、花嫁のブーケとしてもよく利用されています。花の色は、白やグリーンがあります。

### (2) 県オリジナルの品種

本県で育成したカラーの品種に、「熊本FC01」・「熊本FC02」(H22年度公表)があります。



熊本FC01



熊本FC02

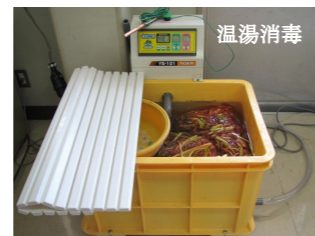
どちらも病気に強く、収量が確保でき、花の色が純白。さらに、FC01は、収穫時期がやや早く長期収穫が可能。FC02は、既存品種と花形が異なる特徴を持っています。

### (3) 新技術☆

カラーの産地では、疫病発生による収量の減少と品質の低下が問題となっていました。

疫病対策は、①土壌消毒②球根消毒③抵抗性品種の組み合わせが有効です。しかし産地では、球根消毒を導入した改植技術が確立されておらず、定植後の萌芽が安定していませんでした。

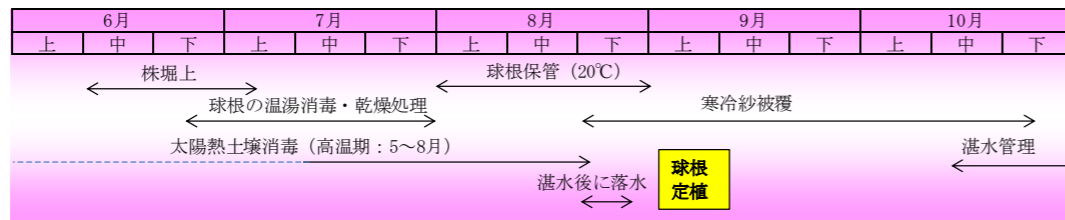
そこで、今回、温湯消毒した球根の定植後の萌芽が安定する方法を開発しました。



50℃の温湯に1時間浸潤



この技術を導入することで、改植後の収量確保と品質向上が期待できるとともに、新品種導入に寄与するものとされます。



技術の詳細はコチラへ <H25年度公表 農業の新しい技術>

農産園芸研究所 花き研究室 担当：工藤 ☎：096-248-6444

# ラボから新技術

その2

特集 稼げる農業を目指した革新的な生産技術

## 冬出しトルコギキョウで、側枝(商品花蕾)数の確保と収穫後に日持ちを向上させる栽培法

一花のボリュームアップ+日持ちをよくし、外国産との差別化を図る

### (1) トルコギキョウの生産

本県のトルコギキョウは、カラー同様、出荷量全国第2位！

夏場は高冷地、また、秋から春にかけては平坦地を中心に出荷されており、県内のほぼ全域から、一年を通して出荷されています。

原産地は「トルコ」ではなく北米で、「ギキョウ」とは全く別のリンドウ科の植物です。細くしなやかな花姿は、まるでフリルのように優雅で気品あるイメージで、冠婚葬祭やアレンジメントなどで人気の花となっています。花の色は、白やピンク、黄色、ラベンダー色などバリエーションも豊富です。



農産園芸研究所 花き研究室 工藤研究参事

技術の詳細はコチラへ <H25年度公表 農業の新しい技術>

農産園芸研究所 花き研究室 担当：工藤 ☎：096-248-6444

### イベント情報(1~3月)

●高原農業研究所

高原農業研究所成果発表会(2月中旬)

●天草農業研究所

天草地域農業普及振興・試験研究発表会(2/21)

### (2) 新技術☆

冬出しの栽培は、ブランド力に大きく貢献している作型ですが、冬に咲かせる栽培は、花の数が少なく、ボリュームが不足しがちです。また、台湾産を中心とした輸入量も急増しており、それらとの差別化を図る必要がありました。

そこで、今回、花のボリュームを確保し、更に収穫後の日持ちをよくする栽培法を開発しました。

暖房を用いた温度管理と白熱電球を用いた長日処理を、どのタイミングでいかに省エネで行うかがポイントとなります。



<電照時間帯による切り花品質の違い>

冬出し栽培において、この技術を導入することで、花のボリュームがアップし、品質も向上します。ブランド力の強化が図られ、更なる所得の向上が期待されます。

「最新の農業知識や  
技術を学ぶ」

県内の意欲ある農業者等を対象に、熊本県立大学、農業大学校、産業技術センター、当農業研究センターなど、県内の様々な機関が連携して、5つのテーマ(最新栽培技術、農業経営、6次産業化、農業機械、鳥獣被害対策)による講座を開催しています。

昨年度は15講座を開催し、1504件の申し込みがあり、大きな反響を呼びました。

今年度は、新たに県南校がスタートし、昨年度の2倍となる34講座に拡充して実施しています。

